
Escape From Hospital

龍源寺直介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

E s c a p e F r o m H o s p i t a l

【Nコード】

N 2 7 3 6 W

【作者名】

龍源寺直介

【あらすじ】

E s c a p e F r o m H o s p i t a l

薄情だがおれだけは退院する

（蜘蛛の糸を手繰り寄せ）

両隣の奴らはもう駄目みたいだ

（おそらく斜向かいも）

一生病院と関わりをもって過ごすだろう

（それはそれで悪くない）

だがカルバン・クラインの下着は似合わない

（卵はサニーサイドアップがいいのに）

朝昼晩の食後と寝る前に薬を飲んだ

（一列に行儀よく並んで）

運動不足とストレスと副作用で慢性便秘だ

（下剤で処理をする）

アイポッドばかりを鼓膜に響かせて

（録音したラジオ番組ばかり）

そんな病院ともついに別れの時がきた

（晴れて退院だ）

そして病院の向いに寄生するようになった

（それが最善の道に思えた）

飛び立つ前には滑走路の整備が必要だ

（助走にも脚力がある）

いつの間にか精神障がい者って……

（これって差別あるんですか？）

生還者の出世した話は聞いたことがない

（入院患者は生きている）

退院して山奥で自殺をした男の噂は聞いた

（非業の死だ）

墓碑の最期には闘死と彫刻されたい

（自殺とかもう飽きたよ）

そしておれは病院から脱出した

（カルテからは逃げられない）

「守りたい」とかいいたくて

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2736w/>

Escape From Hospital

2011年10月9日15時23分発行